独自の詩の声

―― オーデンの『学苑落書き集』――

森田　孟

半世紀近い詩人としての営為で膨大な詩業を残した W. H. Auden (1907-73) は，種々の詩型を駆使してみせたが，後年，一連の〈クレリヒュー〉作品 "Academic Graffiti"「学苑落書き集」を出版（1971年）して，Ogden Nash（1902-71）の霊に捧げた。[1] ナッシュは，ニューヨーク出身のアメリカの詩人で，とくに，痛烈な時事諷刺なども含む軽妙洒脱でユーモアに富んだ優雅な詩 Light verse の数々によって人気を博したが，オーデン自身も，総計1,113行から成る「バイロン卿への手紙」"Letter to Lord Byron"（1936）や1,707行の「新年の手紙」"New Year Letter"（1940）などの長詩と共に，「短詩集」"Shorts" と称して，軽妙な短い詩を多く書いた。「学苑落書き集」は，如何にも，ナッシュに捧げられるに相応しい，オーデンの面目の一端を如実に示す詩篇である。

〈クレリヒュー〉Clerihew とは，周知の如く，aabb と韻を踏む長短不同の不規則な韻律の四行詩で，第一行に人物名を出し，その人物の特徴などを諷刺風に軽妙に歌うものが多く，英国のジャーナリストで探偵小説家の Edmund Clerihew Bentley（1875-1956）の考案に成る。詩型の名称はその創始者の名に由来する。軽快な気分を出すのに便利な遊戯詩として，次第に，17世紀フランスで流行した題韻詩〈ブリメ〉Boutsrimés や，Edward Lear（1812-88）の *The Book of Nonsense*（1846）によって普及した〈リメリック〉Limerick に取って代わるに到った。〈リメリック〉（この名自体はアイルランドの地名）は弱々強調（anapaest）や強弱々調（dactyl）の五行の遊戯詩で，aabba と押韻し，三行目と四行目は他の行の半分の長さのものが普通である。

オーデンの〈クレリヒュー〉集は，まず自らを槍玉に挙げる。

My First Name, Wystan,
Rhymes with Tristan,

But——O dear!——I do hope
I'm not quite such a dope.

（吾が洗礼名ウィスタンは/韻を踏む　トリスタンと/だが——いやはや——頼むよ/そんなうつけでないことを。）［トリスタンはアーサー王伝説に登場する Arthur 王の円卓騎士中最も有名な一人 Tristram で，彼と Mark 王の妻 Iseult との恋愛は，Wagner の楽劇『トリスタンとイゾルデ』他，多くの物語の主題となっている］

以下，60名の多彩な人物達が，姓名のアルファベット順に華麗に集められた後，次の二篇の〈リメリック〉で締め括られるのが，オーデンの「学苑」である。

T. S. Eliot is quite at a loss
When clubwomen bustle across
At literary teas,
Crying : ——"What, if you please,
Did you mean by *The Mill on the Floss?*"

（T. S. エリオットは全く途方にくれる/上流社交婦人連がばたばた動き回って/文芸のお茶の会で/こう叫ぶ時，「お訊ねしてよろしいかしら/『フロス川の水車小屋』で何をおっしゃりたかったのでしょうか」と。）——この作品（1860年刊）は無論，19世紀英国の女流作家 George Eliot（1819-80）の小説である。

To get the Last Poems of Yeats,
You need not mug up on dates ;
All a reader requires
Is some knowledge of gyres
And the sort of people he hates.

（イエイツの最後の詩篇を理解するのに/日付についてガリ勉するには及ばない/読者に必要なのはただ/旋回と彼が嫌いなたぐいの人々について/幾らか知っていることだけ。）——William Butler Yeats（1865-1939）には最晩年に *Last Poems*（1939）がある。旋回とは渦巻き状の詩風のことに言及しているのだろう。

以下，60篇の〈クレリヒュー〉を，便宜上，順に番号を付し，各人物の生没年と最小限の注釈をつけ，押韻の原語を示して拙訳で紹介しながら，この〈落

書き〉の特質を垣間みてみよう。

① ヘンリー・アダムズは
〈奥様たち〉を　酷く恐れた
乱雑な家に
彼は静かに坐っていた　鼠のように。
[Henry Adams(1838-1918). 米国の歴史家。その著 *The Education of Henry Adams*(1907)の中の，少年期の挿話に触れたものか。Madams/house, mouse]

② 聖トマス・アクィナスは
葡萄酒を常に
医薬ジュースと看做していた
推論する助けになってくれようかと。
[St.Thomas Aquinas (1225？-74).『神学大全』(1265-73) の作者で，この内容は，カトリック教会の神学者・13世紀最大のスコラ哲学者なら如何にもさもありなんと思わせられる。as/Juice, deduce]

③ ヨハン・セバスチャン・バッハは
自らの専門に精通していた
彼の「フーガの技法」ほど
堪能なものはあり得まい。
[Johan Sebastian Bach (1685-1750)。*Fach/kluge, Fuge.* ドイツ語が用いられている]

④ トマス・ラヴェル・ベドウズは
牧場を歩いていると
いつもふさぎこんでは
墓のことを考えずにはいられなかった。
[Thomas Lovell Beddoes (1803-49)，英国の詩人・劇作家。詩劇『死の笑話集』*Death's Jest-Book* (1850) を書いた。meadows/glooms, tombs]

⑤ ルートヴィヒ・ファン・ベートーベンは
証明されたと信じた

死すべき運命の人間にとっては
在らねばならぬが　在らねばならぬ，と。

[Ludwig van Beethoven (1770-1827)。第五交響曲「運命」に触れているのだろう。proven/dust, must]

⑥ 立派な女王エリザベスは
気を損ねるわけにはいかなかった
バーリーとセシルが
同じ器から飲んだ時も。

[Good Queen Bess (Elizabeth Ⅰ, 1533-[在位1558-1603])。Burghly, Ist Baron (1520-98)，英国の政治家。Elizabeth 一世に40年間仕え，中道政治を堅持して近代英国の基礎を築かせた最大の功臣。本名 William Cecil。バーリーとセシルは同一人物である。前者は公的存在，後者は私的なそれを表わすか。別人がまるで睦まじい夫婦のように見える書き方が面白い。この女王は独身だった。less/Cecil, vessel]

⑦ ウィリアム・ブレイクは
ニュートンを理解するのは難しいと思った
フランシス・ベイコンに
途方もなく心を惹かれることはなかった。

[William Blake (1757-1827), Sir Isaac Newton (1642-1727), Francis Bacon (1561-1626)。ブレイクの詩の内容に触れていよう。take/taken, Bacon]

⑧ ロバート・ブリッジスは言った
ユスリカに酷くさされて
「連中は義務を果しているだけさ
私の美しさへの遺言として」。

[Robert Bridges (1844-1930). この英国の桂冠詩人には4,374行から成る芸術哲学論の難解な名作長詩『美の遺言』*The Testament of Beauty* (1929) がある。midges/duty,beauty]

⑨ ロバート・ブラウニング
しかめっ面を　直ちにやめて

顔赫らめた
フラッシュに諂われて。

[Robert Browning (1812-89)。この，難解な作品を膨大に残した Victoria 朝の代表詩人は，六歳年長の詩人 Elizabeth Barrett (1806-61) との熱烈な夫婦愛でも有名だが，Flush はその夫人の愛犬の名。Virginia Woolf (1882-1941) にこの犬を扱った小説 *Flush* (1933) がある。frowning/blush,Flush]

⑩ マルティン・ブーバーは
管取り付け工に 「汝」とは決して呼び掛けなかった
その教義にも拘わらず
必要を感じなかったから。

[Martin Buber (1878-1965)，我＝汝関係の原理をその哲学の根本としたオーストリア生れのイスラエルの哲学者・神学者。主著の一つに『我と汝』*Ich und Du* (1923) がある。tuber/creed, need]

⑪ バイロン卿は
一度セイレンの一人に屈服した
彼の身体は弱かった
彼女のはギリシャ人のだった。

[George Gordon Byron (1788-1824)。セイレンは，その美声によって水夫たちを海中に投身させたという Sicily 島近くの小島のあの半人半鳥の海の精。Siren/weak, Greek]

⑫ 韻律学者数ある中で ビッシュは
音節数えの老いぼれ弱虫
寄生動物
音の強弱を重んずる害虫だった。

[詩論 *The Art of English Poetry* (1702) を編集し，Xenophon の *Memorabilia* の翻訳 (1712) のある Edward Bysshe (fl, 1712) のことだろう。sissy/Guest, pest]

⑬ アーサー・ヒュー・クラフは
いかす若い娘に振られた時に

「残念だ！」と溜め息ついて
『旅への愛』を書いた。

[Arthur Hugh Clough (1819-61), 宗教上の疑惑を歌った英国の詩人。*Amours de Voyage* (1849) の作者。「残念！」"Quel dommage!" はフランス語。fluff/dommage, Voyage]

⑭ ダンテは
すっかり魅了された
ベアトリーチェが素敵な声音で叫んだ時に
私たちはお友だちだわ，と。

[Dante Alighieri (1265-1321)。4行目は Noi siamo amici でイタリア語のまま。enchanté/peachy, amici]

⑮ フーゴ・ドフリースは
ギリシャを訪問中
田園詩を創った
『木部と師部』を。

[Hugo De Vries (1848-1935)，オランダの植物学者で，オオマツヨイグサの交雑実験によって突然変異説を提唱した。*Xylem & Phloem* の "xylem" は19世紀ドイツの植物学者 K. W. Nägeli の造語。"phloem" と共にギリシャ語が語源。Greece/poem, Phloem]

⑯ チャールズ・ディケンズには
見付からなかった　ひよこに言うべき一言も
しかし　うさぎとのおしゃべりが
彼の習慣の一つになった。

[Charles Dickens (1812-70)，英国の小説家，代表作の一つは *David Copperfield* (1849-50)。雛鶏には，若い娘，小娘の意があり，兎には口語で，クリケットなどの下手な競技者の意がある。chickens/rabbits,habits]

⑰ デジデリウス・エラスムスは
常に〈交錯配列法〉* を避けたが
次第に時と共に熱中していった

〈撞着語法〉** に。

[Desiderius Erasmus (1466？-1536)。この文芸復興期の先覚者は，優れた修辞学者でもあった。*「人は食べるために生きるのではなく生きるために食べるのだ」のように類似語句反復の際の語句の順を逆にする表現法。**「賢い愚か者」「醜い美」のような表現。chiasmus/on,oxymoron]

⑱ フルケ・グレヴィルは
海面で美事に書いた
等高線が上るごとに彼の詩は
次第次第に劣っていった。

[Fulke Greville (1554-1628)，英国の詩人・政治家。Sir Philip Sidney や Francis Bacon とも親しく，Elizabeth 一世の寵臣として顕職に就いた。地位の向上と共に詩が劣ったことを指すか。level/verse, worse]

⑲ ゲーテの中の〈枢密顧問官〉が
彼を一層そっけなくさせた
彼の色彩論に
疑い深くなった〈世人〉に。

[Johan Wolfgang Goethe (1749-1832)。「枢密顧問官」*Geheimrat* と「世人」*Leute* はドイツ語のまま。curter/leery, Theory]

⑳ ライダー・ハガード卿は
全く仰天した
己が未来の花嫁が
「私が彼女よ！」と公表した時。

[Sir Henry Rider Haggard (1856-1925)，英国の小説家・農学者。作品は *King Solomon's Mines* (1885) など。staggered/bride-to-be, She!]

㉑ ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルは
ケンダルで甚だ尊敬された
ジョージ・フレデリック・ハンデルだった
あらゆる醜聞を惹き起したのは。

[Georg Friedrich Händel (1685-1759)，ドイツ生れのこの作曲家は1710年

に英国へ渡り，1726年英国に帰化し，イングランド北西部 Cumbria 州の都市 Kendal に住んだ。後者は帰化後の英国名で，作曲家と私人の違いに触れているのだろう。Kendal/Handel, scandal]

㉒ トマス・ハーディは
決してくずつかなかった
〈内在意志〉を
成就するよう喚び掛けられた時。

[Thomas Hardy (1840-1928)。"The Immanent Will" は，彼の小説 *Tess of the D'Urbervilles* (1891) などに体現されている，宇宙を支配する盲目的な意志。人間は自由意志の如何に拘わらず一層大きな "Will" に操られるのだと，彼は考えた。tardy/fulfill, Will]

㉓ ヨーゼフ・ハイドン
ドライデン読まず
ジョン・ドライデン
ハイドン聴かず。

[Joseph Haydn (1732-1809)。John Dryden (1631-1700)。二人の名が押韻に使われている。ドライデンがハイドンを聴かないのは当然。]

㉔ 何びとをもってしても不可能だろう
ゲオルク・ウィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲルに
誘いかけて彼の『現象論』への弁明を
幽かにでも表明させるなど。

[Georg Wilhelm Friedrich Hegel (1770-1831)。主著の一つ『精神現象学』(1807)。inveigle/apology, *Phenomenology*]

㉕ ジョージ・ハーバートは
シャーベット水を注文したことがあった
ソールズベリー平原で
無駄な注文だった。

[George Herbert (1593-1633)。英国南部 Salisbury の北方にある起伏高原地帯には Stonehenge がある。Sherbet/Plain, vain]

㉖ ロバート・ヘリックは
確かに『エリック』は書かなかった
我らの知る
限り，それはファラー首席司祭だった。
[Robert Herrick (1591-1674)。Frederic William Farrar (1831-1903) は Canterbury の首席司祭で，教育宗教関係の著書が多い。*Eric*/far, Farrar]

㉗ ヘンリー・ジェイムズは
〈奥方〉なる語を嫌って
いつも「カアチャン」と書いた
括弧を付けて。
[Henry James (1843-1916)。『ある貴婦人の肖像』*The Portrait of a Lady* (1881) の作者。*Dames*/"Mommas", commas]

㉘ 幼少のカントは
叔母さんにキスしなさいと言われた時
従ったのだ　定言的絶対必要事に
ようやっとのことで。
[Immanuel Kant (1724-1804)。"Categorical imperative" (定言命令) はカントの用語。aunt/Must, just]

㉙ ゼーレン・キルケゴールは
猛然と試みた
一大〈飛躍〉を遂げんものと
だがどさっと倒れた。
[Søren Kierkegaard (1813-55)，実存主義に影響を及ぼしたデンマークの宗教哲学思想家。人がキリスト者になる啓示の瞬間を把えるには，情熱的な信仰の飛躍によるしかないとするその思想と，路上で倒れた早逝とに触れたものだろう。hard/Leap, heap]

㉚ カール・クラウスは
飼っていた　常に何羽かライチョウを
彼の〈黒い動物たち〉の中には

ウィーンの囀り鳥たちがいた。

［Karl Kraus (1874-1936)，オーストリアの批評家・劇作家。社会と文化のあらゆる欺瞞・腐敗に激烈な批判を溢びせた。"bêtes noires"〈黒い動物たち〉とは「嫌なもの」のこと。ライチョウは〈不平不満〉を表わすか。grouse/noires, choirs. 3，4行は視覚韻。］

㉛ ロード大司教は
〈高く〉て〈広く〉はなかった
身を屈して祝福は
出来なかった　ロンドン北部地区を。

［William Laud (1573-1645) は，Canterbury の大司教で清教主義に反対し，国事犯人として処刑された。〈高い〉〈広い〉は，High［Broad］Church（高［広］教会派）の意で,英国国教会内の傾向を分類して呼ぶ俗称。教義や儀式遵守に対する態度の厳格さと寛容の度に依る。High, Broad, Low（低教会派）の順に寛容になる。ロンドンの北部地区 the North End には低教会派の人々が多く住んでいた。Broad/descend, End］

㉜ エドワード・リアは
恐れに憑きまとわれた
アルバニアを旅行中
盗癖病に羅かるのではないかと。

［Edward Lear (1812-88)，*The Book of Nonsense* (1846) の作者。fear/Albania, kleptomania］

㉝ ジョウゼフ・リスターは
妹によれば
アルコール中毒ではなかった
彼の欠陥こそ　石炭酸中毒だった。

［Joseph Lister (1827-1912)，英国の外科医で消毒殺菌法の完成者。「石炭酸中毒」と敢えて拙訳した "carbolic" は，「コールタールから採れる弱酸性物質の」という意。sister/alcoholic, carbolic］

㉞ ロバート・リストン氏は
鋸使い　ピストンのように
得意満面　意気軒昂
人の手足を切り取った。

[Robert Liston (1794-1847), 英国の解剖学の教授で，執刀の巧みさで令名を馳せた外科医。麻酔の知られていない時代には，素早い手術が必要だった。piston/elated, amputated]

㉟ ルターとツヴィングリとは
独りずつ扱われるべきだ
Lが憎悪したのは〈農民たち〉
Zのは〈血肉実在説〉。

[Martin Luther (1483-1546) はドイツの，Urlich or Huldreich Zwingli (1484-1531) はスイスの，共に宗教改革者・プロテスタント神学者。農民戦争 "The Peasants' War" (1524-25) がドイツ南部に起きた時期だった。"the Real Presence" とは，聖餐の中にキリストの血と肉が実在するという説。singly/Peasants, Presence]

㊱ マラルメには
言うことがありすぎた
彼にはおよそ出来なかった
白紙のままにしておくことは。

[Stéphane Mallarmé (1842-98)，〈曳白の苦〉で知られる。say/quite, white]

㊲ スコットランド女王メアリーは
最も混み入った結び目は作れたが
最も簡単なケーキは
焼けなかった。

[Queen of Scots (Mary Stuart) 1542-87。Bothwell 伯との結婚がきっかけで貴族の反乱を招いて廃位され，翌年英国に逃れるが幽閉の身となり結局 Elizabeth 一世によって反逆罪で処刑された。結び目は結婚などを指し，その生き方辺りへの言及だろう。knots/bake, cake]

㊳ メアリー女王（あの血みどろの）には
代役がいた
新教徒の。
彼女はそうではなかったので。
[Queen Mary (The Bloody), Mary Tudor (1516-58) ともいう英国女王（在位1553-58)。スペインの Philip 二世と結婚し，新教徒を迫害したので Bloody Mary と仇名された。understudy/Prot, not]

㊴ カール・マルクスは
「金銭鮫」なる句を思い付いた時
讃美の歌を歌った
大英博物館の中で。
[Karl Marx (1818-83)。彼は大英博物館の中で多くの研究・執筆をした。sharks/Te Deum, Museum]

㊵ ジョン・ミルトンは
泊ったことなかった ヒルトン
ホテルには，
それはやはりよかった。
[John Milton (1608-74)。Hilton/Hotel, well]

㊶ ウィリアム・ヘンリー・マンクは
生きていた 絶えざる極度の恐怖の中に
ジョン・バッカス・ダイクスによって
値上げを引き受けさせられそうで。
[William Henry Monk (1823-89) は Eaton Chapel のオルガン奏者・合唱指導者・教会音楽の作曲家。大ベストセラーになる『讃美歌集』を編纂したが，その金銭上の利益には全く与らなかった。John Bacchus Dykes (1823-76) も音楽家で高教会派の神学者。聖オズワルド教会の教区牧師を務めたが，晩年，司教との葛藤で苦悩した。funk/hikes, Dykes]

㊷ トマス・モアは
熱狂的賞讃を惹き起した

彼の『アイルランド旋律集』を
わめき立てるたびに。

[Thomas Moore (1779-1852), アイルランドの詩人で *Irish Melodies* (1807-34) の著者。furore/his, *Melodies*]

㊸ ニューマン枢機卿は
ただ人間味を示しただけだ
こき下ろすことを夢みた時に
マニング枢機卿の最新の小冊子を。

[John Henry Newman (1801-90) は，英国国教会改革運動 Oxford Movement の指導者の一人だったが後にローマカトリックに改宗した。近代における英国最大のカトリック神学者で枢機卿 (1879年)。90編に及ぶ時局小冊子 *Tracts for the Times* を発刊するのに尽力した。小説や詩も書いた名文家でもある。Henry Edward Manning (1808-92) も似たような経歴の持ち主で，ローマカトリックに改宗後，Westminster 大司教を経て枢機卿 (1875年) となった。human/panning, Manning]

㊹ ニイーチェには
教師として　調子をはずす
習慣があった
己が論旨を強調するために。

[Friedrich Wilhelm Nietzsche (1844-1900)。teacher/joints, points]

㊺ オックスブリッヂの哲学者連は　大雑把に言って
中流階級保育室の産物
彼らの議論は
ばあやの実際の意味について。

[Oxbridge は Oxford, Cambridge 両大学のこと。cursory, nursery/anent, meant]

㊻ ルイ・パスツールは
同僚諸氏の言うことには
素晴しい関係を保って生きた

扱う細菌の大半と。

[Louis Pasteur (1822-95), フランスの化学者・細菌学者。彼の名から "pasteur [ize] ization"「低温殺菌 [する]」なる動詞や普通名詞も生じた。aver/terms, germs]

㊼ アレクサンダー・ポウプは
決して望みを棄てなかった
標語を見い出す望みを
〈避暑用岩屋〉に貼るためのを。

[Alexander Pope (1688-1744)。hope/motto, Grotto]

㊽ クリスティーナ・ロゼッティは
つまらぬことと思った
兄の D. G. が
彼女のお茶にアヘン剤を入れた時。

[Christina Rossetti (1830-94)。兄の Dante Gabriel Rossetti (1828-82) はやはり詩人で, 画家でもあり,「ラファエル前派」の中心人物。petty/D. G., tea]

㊾ サー・ウォルター・スコットは
インクの染みを作ると
憤激して足踏み鳴らし
新たなページを始めた。

[Sir Walter Scott (1771-1832)。blot/rage, page]

㊿ 「確かに!」とスタンダールは叫んだ
「このスカルピアはそれ程悪くはない
だが彼はモスカ伯ではないな
不運なことにトスカにとっては」

[Stendhal, 本名 Marie Henri Beyle (1783-1842)。「確かに!」"*Ma foi!*" と二行目 "*Ce Scarpia n'est pas si mal*" は, フランス語のまま。Scarpia は Tosca に卑劣に言い寄り挙句の果てに殺される腹黒い警視総監。Victorien Sardou (1831-1908) の史劇 *La Tosca* (1887), プッチーニの歌劇「トスカ」(1900) 参照。Mosca 伯はスタンダールの『パルムの僧院』(1839) の中の首

相。mal/Mosca, Tosca]

㊶ アーダルベルト・シュティフターは
重量挙げ選手ではなかった
彼は前科者たちを雇って
鞄を運ばせたものだった。

[Adalbert Stifter (1805-68), オーストリア散文の創始者とされる作家。代表作に『晩夏』(1857),『ヴィティコー』(1867) など。前者はニーチェがドイツ語散文の四大傑作の一つに数えているがその〈多歴史主義〉の故に小説の特性が欠けているとミラン・クンデラは言う。cf『小説の精神』(金井・浅野訳. 法政大学出版局, 1990) pp. 73-74. -lifter/lags, bags]

㊷ ウィリアム・メイクピース・サッカレイは
嘆いてダイキリあおいだ
〈聖ヨハネの森〉に 余り優れていないと
思われていると聞いて。

[William Makepeace Thackeray (1811-63)。〈聖ヨハネの森〉(St John's Wood) とは Mrs. Henry Wood としての方がよく知られている小説家の Ellen Wood (1814-87) が, その夫の死 (1866) 後 Kensington から South Hampstead の St John's Wood Park へ引っ越したので, その地名と掛けて, 彼女を指すのだろう。換喩 metonymy といってよい。凝った趣向である。daiquiri (カクテルの一種) /Wood, good]

㊸ 詩人トマスは
おそらく立身出世主義者だった
弁えていてしかるべきだった 妖精の女王たちは
手に負えないことを。

[Thomas the Rhymer. Thomas of Erceldoune (?1220-?97) の通称で Thomas Learmont ともいうスコットランドの詩人・予言者。妖精の女王に導かれて七年間仙界で過した後, 郷里に帰って予言を始めるが全て当ったという古いバラッドを書いた。climer/Queens, means]

㊹ トマス・トラハーンは
いつも認めることが出来た
少年たちの中に〈天使〉を
彼らが騒ぎ立ててさえ。

[Thomas Traherne (1637or 9-74), 英国のケルト系の詩人。幼年期に対する神秘感を歌った作品が多い。discern/boys, noise]

㊺ ポール・ヴァレリーは
乏しい報酬を得た
ブーローニュの森を散策しながら
己れの〈自我〉を観察しながら。

[Paul Valéry (1871-1945)。「20世紀の叡智」「人間精神の権化」と謳われる彼の思索は，自らの〈自我〉Moi の徹底した観察に基づくものであるから，ヴァレリーの本質を衝いていると言ってよかろう。salary/*Boi, Moi*]

㊻ 優しいヴィクトリア女王は
上気嫌に駆られて
ディズレイリーに命じた
〈オールド・ベイリー〉を叱りとばせと。

[Queen Victoria (1819-[在位1837-1901])。Benjamin Disraeli (1804-81), 政治家・小説家・首相 (1868, 1874-80)。"the Old Bailey" は，ロンドンの Newgate 街の西端から南に Ludgate Hill に通じる通りで，この通りにある「中央刑事裁判所」Central Criminal Court の俗称。街路名でそこに在る建造物を表わすのだからこれも換喩。euphoria/Disraeli,Bailey]

㊼ ジェイムズ・ワットは
非情ドライなスコットランド人
彼は思った 夢という夢を
蒸気の単なる無駄使いと。

[James Watt (1736-1819), スコットランドの機械技師で，蒸気機関の完成者。Scot/dream, steam]

㊽ オスカー・ワイルドは
すっかり欺かれた
「カフェ・ロワイヤル」にボウジーが歩いて入っていった時
ティーポットカヴァーを身につけて。

[Oscar Wild(1854-1900)。彼との交友で名を知られるのがボウジーこと Lord Alfred Bruce Douglas (1870-1945)，英国の貴族・文人。第八代 Queensberry 侯爵の子息。この侯爵に対する誹毀罪の訴訟に敗れてワイルドは二年間の懲役に処せられた。出獄の翌年匿名で出版した『レディング刑務所の歌』*The Ballad of Reading Gaol* (1898) は，この刑務所生活ではなくて Bosie とのナポリでの暮らしについて書いたものだと，ワイルドは言った。beguiled/Bosie, tea-cosy]

㊾ サー・トマス・ワイヤットは
したことなかった　食事療法などは
サリー伯とは違って
カレーしか食べないなんてことは。

[Sir Thomas Wyatt (？1503-42)，イタリア，フランス，スペインの大使なども務めた英国の詩人。イタリアのソネット形式をサリー伯と共に英詩に最初に取り入れた。サリー伯 Henry Howard Surrey (1517？-47)，英国最初の無韻詩 Blank verse の作者でもある。diet/Surrey, curry]

㊿ クサンチッペは
余り苛立っていない時にはいつも
ソクラテスにどなって言った
「どうしてあんたは　ヒポクラテスじゃないの」。

[Xantippe, Socrates (470？-399 B.C.) の妻。口やかましい悪妻の代表名とされる。苛立っていない時でさえこの有様！というわけで如何にもありそうな話。Hippocrates (469？-375 B.C.)，ソクラテスと同時代のギリシャの名医，The Father of Medicine と呼ばれる。chippy/Socrates, Hippocrates. 尚 "chippy" (苛立った) には俗語で「浮気女，あばずれ」の意もある。]

*　　*　　*

オーデンの〈学苑〉には，最初の自分自身と，締め括りの二篇の〈リメリック〉の二人の大詩人を除き，そして，各篇で引き合いに出される人(㊶や㊸は，2人がほぼ対等に話題にされていると言ってよいが）を除いて総数61人（㉟は2人なので）が登場する。その内訳は，哲学者・思想家が⑩,㉔,㉘,㉙,㊴,㊹,㊿の7人――㊺はこれのみ個有の名でない複数人物。神学者・宗教家が②,⑰,㉛,㉟（これは2人）㊸の6人。音楽家が③,⑤,㉑,㉓の4人，㊶は音楽家兼宗教家。医師・技師を含めた科学者が⑮,㉝,㉞,㊻,57の5人。外国の詩人・作家が⑭,⑲,㉚,㊱,㊿,51,55の7人。女王が⑥,㊲,㊳,56の4人で，男性の王がいないのは面白い。アメリカ人は①，韻律学者は⑫でそれぞれ1人。他はアイルランドやスコットランドも含めた英国の文人たちが24人となる。オーデンが誰を選んだかは，彼自身の本質と無関係ではないが，オーストリア人が比較的多いのは，晩年の15年間ほどのオーデンが毎年春から夏にかけてオーストリアで過すのを常として，死を迎えたのもウィーン滞在中だったことを想い起こせば首肯させられよう。

内容の面では，A―対象の人物の人柄や生活上の挿話に関わるもの。B―その人の仕事や作品の本質に触れているもの。C―その両方に跨るもの。概略，以上の三種が大半を占めるがこれは〈クレリヒュー〉の機能そのものでもある。要はそれが如何に肯綮に当っているか，諧謔味や諷刺が効いているか，ああ，あの件を皮肉っているなと膝を打たせるか，うん事実か否かは判らないが，あるいは事実ではなさそうだが如何にもさもありなんだなあと頷かせるか，で価値が決るだろう。オーデンのこの「落書き集」は，いずれも各々，美事な出来栄えだと思われる。Aの類では⑨,㉗,㉜,52,㊿など，Bに属するものでは⑧,⑰,㉒,㉙,㉞,㉟,㊱,㊻,㊿など，Cの部では⑬,⑲,㉘,㊴,55などは，特に優れているだろう。対象の人物の「専門」分野に関して，③は褒めたもの，⑫は貶したもの，㊺は仲々穿ちの効いたもので，オーデンもオックスフォードの出身であることを想えば一層面白いが，尤も彼自身は「哲学者」ではないというつもりか。

同じ人物の別名を利用したもの⑥,㉑，音の遊戯（に近いもの）㊵など，多彩であるが，Milton と Hilton の音遊びと思われる㊵にしても，ミルトンの生涯に亙る業績の詳細な知識を，ヒルトンホテルの実態とその創設・創業者の人と生涯との情報にぶつけてみれば，この一見たわいなく見える四行の戯詩も，深遠な人間論・文化論の提示であるかも知れないのである。何かしら読者に，そのような類のことを感じさせるものを，この「落書き」の各々は発散してい

るように思われるが，それは，オスカー・ワイルドの詩が一篇も生き残っていないのは，彼の書いたものが詩一般の模倣であって，彼自身の詩の声を全く欠いていたからだと，オーデンが評した，[2] その「彼自身の詩の声」，〈独自の詩の声〉を，オーデンその人は常に失うことがなかったからである。

注

1） Edward Mendelson, ed., *W. H. Auden : Collected Poems*, London : Faber & Faber, 1991, pp. 676-686.

2） W. H. Auden,*Forewords and Afterwords*, Random House, 1973. See Justin Wintle and Richard Kenin, eds., *Dictionary of Biographical Quotation*, Routledge & Kegan Paul, 1978, p. 791.

———————*———————

This paper includes my new translation of W. H. Auden's clerihues "Academic Graffiti", with the fewest notes essential enough to have them understood. The work itself, though not so discussed, shows "the poetic voice of his [the author's] own", whose lack Auden moaned in Oscar Wild.